

大津

滋賀県行動障害ネットワーク 圏域別課題整理表

印刷日

2020/5/3

① システムと制度

各支援機能		就学前	学齢期			青年・成人期	接続	
教育 日中活動		通常保育園 児童発達支援	小学校・小学部	中学校・中学部	高等部	生活介護または就労継続支援B型	自立支援協議会	
相談支援	心理/発達 専門 相談など	健康推進課・県発達 障害者支援センター	無？ びわこ学園野 洲？ 県発障者支援 センター？	市単位：支援センター 県単位：びわこ学園野洲・県発達障害者支援センター				
	生活相談	保健所	委託相談支援事業 所？	委託相談支援事業所				
	計画相談	障がい児相談			指定特定相談			
生活支援	自宅外	障害児施設	障害児施設・短期入所			施設入所支援・共同生活援助・短期入所		
	自宅	居宅介護	居宅介護・行動援護			居宅介護・行動援護・重度訪問介護		
	緊急	ナイトケア・短期入所						
余暇支援 平日夕方 休日 長期休暇 など	個別	？	？	移動支援・居宅介護・行動援護・重度訪問看護				
	集団	？	？	放課後等デイ・日中一時支援・日中一時支援		日中一時支援		
医療支援	小児科・児童精神科 / 通院介助・コミュニケーション支援							
接続			？	進路調整会議				
研修体系・研修制度	？		？	市単位：自立支援協議会の人材育成部会 県単位：強度行動障害支援者養成研修(基礎研修、実践研修)				

② 現状

各支援機能		就学前	学齢期			青年・成人期	接続	
教育 日中活動	療育	通常保育園 やまびこ・わくわく・のびのびの各教室	通常学校 / 養護学校(草津・北大津・附属(三雲))			生活介護17ヶ所 (うち行動障害受入10ヶ所) 就労B24箇所(1ヶ所)	自立支援協議会 / 相談支援	
相談支援	心理/発達 専門 相談など	すこやか・県発達障 害者支援センター	(子ども発達相談センター⇒基本は「高機能」) びわこ学園野洲・県発達障害者支援センター	(生活支援センター⇒発達障害に限定せず。)(自閉症・行動障害サポートセンター⇒自 主事業)(市発達障害者支援センター⇒「高機能」限定) / びわこ学園野洲・県発達障 害者支援センター				
	生活相談	すこやか	一般相談事業所(支援センター・みゆう・ひびき・じゅぶ・木戸)					
	計画相談	やまびこ園相談担当(園通所者のみ) ??????(園通所者以外)	指定特定相談事業所(支援センター・みゆう・ひびき・じゅぶ・木戸・ブリッジ・あかねぐも)					
当事者や 家族の 組織・相談	児童発達支援の家族会	養護学校PTA・知的障害者相談員・育成会・他 (子ども発達相談センターのペアプロ10人/年を継続。プログラム 終了後もネットワーク化。)			各通所施設家族会・知的障害者相談員・育成会・他			
生活支援	施設		近江学園(うち大津圏域かつ行動障害??人)			ステップ広場ガル51人(うち行動障害約30人)		
	共同生活 援助				伊香立の杜30人(うち行動障害??人)(半ば入所機能) つむぎの家4人(うち行動障害??人) (平成30年以降やまゆりホーム開所予定) その他にあり?			
	短期入所	近江学園	ガル・伊香立の杜・近江学園 (ガル・伊香立利用者が多い。)			ガル・伊香立・(蛍の里)・(あざみ寮) (行動障害かつロングステイ3人)		
	居宅介護	居宅介護事業所92ヶ所(実質??) / 重度訪問介護事業所0ヶ所						
ナイトケア	支援センター							
余暇支援 平日夕方 休日 長期休暇 など	個別	？	？	移動支援事業所60ヶ所(実質??) / 行動援護事業所24ヶ所(実質??)				
	集団	？	？	学童・放課後デイ15??ヶ所 / 日中一時支援9ヶ所 (日中一時は療育手帳Aで重度加算)(学童は、状態に応じて加 配)		日中一時支援6ヶ所(療育手帳Aで重度加算)		
医療支援	専門病院：小児医療センター、びわこ学園草津、びわこ学園野洲、阿星山診療所が多い。 / 総合病院：滋賀病院、大津市民病院、大津日赤病院、滋賀医大、など。 / 精神 医療センター / びわこ学園野洲の有目的入院がある。(大津圏域からの利用実績1人×2回) / 通院時の付添で通院介助、また、入院時の付添で意思疎通支援事業利用 可。							
接続			？	各学校と各事業所間(実習や引継会議) / 自立支援協議会の 日中支援部会で集約 / 進路調整会議				
地域開発 SV	？	？	自立支援協議会の関係部会等 / 自閉症・行動障害サポートセンター					
研修体系・研修制度	？	？	自立支援協議会の人材育成部会の研修体系が開始。 自・行センター・自立支援協・おおつ福祉会による自閉症の基礎研修(1セット2h×2回)を定期開催開始。					

③ 強み[上段]と課題[下段]

各支援機能		就学前		学齢期		青年・成人期		接続
教育 日中活動	療育	?	?	養護学校進路担当教諭を中心に、自立支援協議会参加等に積極的で、そのレベルではやりとりしやすい。		一定数の事業所で一定の行動障害支援の歴史。いちばん星：自閉症・行動障害を主対象。日中支援部会で、学卒後のケースについて、進路や事業所移行の調整を行っている。		身の割には、行政（の部会）が多くなが比較的に活き面がある。相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
		?	?	普通学校から養護学校へのつなぎは？？？？学校そのものの課題。授業内容とか、人材育成とか、？？？。		マンツーマン対応ケースの人員の確保。／環境整理・構造化・個別スペース確保のためのスペースとお金の確保。／行動障害・自閉症等に合わせた活動設定が不十分になりやすい。／支援者の専門性向上の体系(OJT・SV・研修)が弱い。／H29年頃に生活介護タイプの事業所の空きが無くなる。		
相談支援	心理/発達専門相談など	?	?	教育-福祉で連携しながら予防的に関わるパイロットケースあり。		びわこ学園野洲との連携がある。自・行サポートセンターによるSV・アセスメント・機関連携支援がある。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
	生活相談	?	?	行動障害が強度化してから深く支援に入ることが多く、予防的関わりが不足。発達障害の専門機関は複数あるが、「高機能」に限定的。また、認証発達障害者ケアマネジメント支援事業は実施していない。自・行サポートセンターは、対象が成人・行動障害から児童期・発達障害全般にも広がっているが、自主事業でありお金がつかない。		一部のケースで専門相談と積極的に連携。		
	計画相談	?	?	比較的時間をかけて利用者のニーズを細やかに捉えて実施できている。		まだ必要ケース全件分が終了していない(人員不足)。その状況で、H27度は認定調査更新者が多い。計画相談内容について、学校との連携が弱い。		
	当事者や家族の組織・相談	「支える会」に幅広い加入者。当事者組織・家族組織ともに一定数はある。		各組織の特徴や一覧が見えにくい。「行動障害」「知的重度」「自閉症」等を焦点にあてて保護者組織とつながる部分が弱い。ペアレントメンターや、家庭訪問型など家族の「日常」を支える専門相談がない。当事者についても、一般相談の中で相談できるが、抱えきれない。(相談員の量・質の不足。)				
生活支援	施設			近江学園の大津圏域担当者との連携があり、近江学園利用者について積極的に行動障害部会で取り上げ共有している。		ステップ広場ガルが、セイフティネットとしての役割を明確にしている。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
	共同生活援助			成人施設の空きがないので、それを見据えた支援・指導を作りにくい。近江学園入所後に、進路以外は圏域関係者との連携が少ない。連携できるケースでも、元々自宅での過ごしに難しさがあつたケースで、かつ、成人施設に空きが無く行動障害に対応できるホームが無いので、連携が行き詰る。		伊香立の杜が入所的機能を果たしている。つむぎの家で、行動障害に対応。行動障害や重度者対応型のホームの構想はあるが、土地や財政面(環境設定・人材等)の確保に苦慮。やまゆりホームにも行政からのお金がかさず。		
	短期入所			圏域の短期入所事業所で役割分担があり、SS連絡会等で比較的連携が取れている。		切迫した状況での入所待ちが多い。県外施設利用者も多い。両親の高齢化等に伴う県外施設から帰県希望あり。それらの状況に対して、入所施設が1ヶ所で満員であるため、入所希望⇒県外になる状況。ガルにおける「高齢障害者」の課題が大きくなり、相対的に行動障害への対応の幅が狭まっている。		
	居宅介護			圏域内に中学生に達しない子どもが利用できる短期入所がない。近江学園は空床型で、利用目的はレスパイトがほとんどになっている。		伊香立の杜が入所的機能を果たしている。つむぎの家で、行動障害に対応。行動障害や重度者対応型のホームの構想はあるが、土地や財政面(環境設定・人材等)の確保に苦慮。やまゆりホームにも行政からのお金がかさず。		
	ナイトケア	?	?	?	?	?	?	
余暇支援 平日夕方 休日 長期休暇など	個別			通所・入所施設等との連携の中で、行動援護が拡がったり継続できているケースがある。それを可能にする一定の専門性を持つ事業所がある。		行動援護に実際に対応できる事業所が少ない。／車両送迎できる事業所が限られている。／移動支援で車が利用できるため、行動援護で外出される方が少ない。／外出時に本人が過ごす拠点となる場所の確保が困難。／家族のニーズと本人のニーズのずれがあることによる、ヘルプの中身を組み立てる際の苦勞。／その他「居宅介護」欄参照。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
	集団	?	?	社福の日中一時で、重度児を中心的に受け入れ。		平日夕方について、各法人・事業所内で対応できている部分はある。		
医療支援				行動改善・見立て・服薬調整等を目的としたびわこ学園野洲への有目的入院がある。南部を中心に総合病院が多く、比較的行動障害者を受け入れる工夫をもらえる。		平日夕方について、各法人・事業所内で対応できている部分はある。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
				とはいったものの、行動障害者が受診できる病院・科は少ない。通院時に通院助を利用されている方も多い。制度的には「完全看護」であるはずの入院時に付き添いを求められることが多く、家族や関係支援者がフォローしている。入院時意思疎通支援派遣事業が制度としてはあるが、利用要件及びヘルパーの確保が厳しく、利用者は限定的。また、身体介護ができない難しさがある。				
接続		?		「教育・日中活動」欄参照。		子どもの生活全体と進路を踏まえた上での、予防的な支援・指導の不足。福祉との連携の中心は、高等部での実習と移行のみ。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
地域開発SV	?	?		養護学校進路担当教諭や近江学園による自立支援協議会への参加が積極的。		行動障害部会でのケースを通じた支援観等の共有および課題整理。虐待防止センターが委託されており、広報啓発等に積極的。自・行サポートセンターによるSVや連携促進。		
研修体系・研修制度		?	?	例えば住まいの場の確保など、課題整理は進んでいるが、それを実際に実行する部分に課題が大きい。「心理/発達・専門相談など」欄参照。		例えに日中一時事業所が少ない。現在の単価では、人員確保・環境設定の両面において行動障害者への対応が難しい。		相談支援専門員が臨機応変に動き、比較的關係機関を集めないやすい。ただし、細かい支援の連携に課題。（一部に専門機関が入って共有が進んでいるケースあり。）
		?	?	既に整備された研修の中で、基礎的なことを座学で学ぶことは可能。それと自・行サポートセンターのSVに連携がある。行動障害部会でのケース検討が、研修的機能を持っている部分もある。		座学の中で発展的に学んでいく場がない。(積極的に県外も含めて探す必要がある。)教育と福祉が連携しながら学んでいく形が、実際のケース以外には少ない。		